

道道小樽定山溪線の 通年通行に向けて

二つの温泉と湖を結ぶ 新しい交流の時代へ



北海道小樽土木現業所

小林 和男
事業部事業課長

●あらし

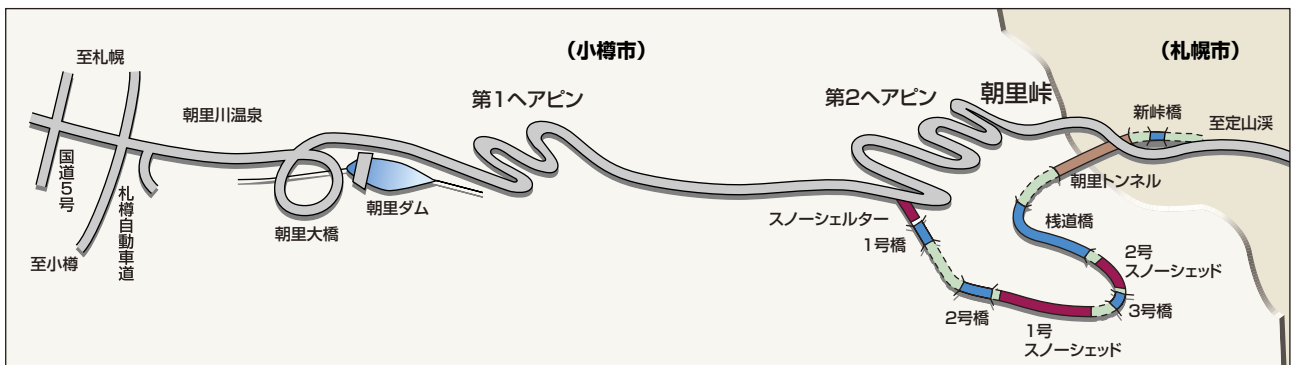
道央周辺の地図を開くと、札幌市と小樽市間の道路は、札幌自動車道、一般国道5号と337号、主要道道小樽定山溪線のわずか4路線しかなく、意外に両市を結ぶパイプが細いことに気がつきます。特に国道337号は銭函付近で国道5号に接続しているので、道南方面から札幌市中心部を経由せずに小樽市へ連絡するのは、この小樽定山溪線のみとなっています。この路線は、港町小樽と札幌の奥座敷定山溪を直接結ぶ延長39kmの主要道道です。沿線には定山溪温泉と朝里川温泉の二つの温泉地、定山溪ダムと朝里ダムの二つのダム湖、札幌国際と朝里川温泉の二つのスキー場があり、風光明媚なことから観光ルートとしてはもちろんのこと、産業を支える幹線道路として交通量も年々増加しています。

しかし、朝里峠付近は道内有数の豪雪地帯であり、地形は急峻で、道路は急勾配のヘアピンカーブが連続しているため、冬期間（11月～4月）は、朝里ダム駐車公園から札幌国際スキー場に至る12.5kmの区間を通行止めにしてあります。そこで、道路を管理する小樽土木現業所と札幌市（政令指定都市のため札幌市内区間を管理）では、冬季通行不能を解消し、通年通行を確保するため、現在道路改築工事を実施しており、平成12年度から冬期間も開通の見込みとなりました。

●沿革

道道1号線のルートナンバーを持つ主要道道小樽定山溪線の歴史は古く、今から130年以上前の定山溪温泉の発見にさかのぼることが出来るようです。定山溪温泉は、慶応2年（1866年）に備前国（現在の岡山県）生まれの修験僧・美泉定山が発見したと伝えられています。定山和尚は、地元民の力を借りて温泉までの山道を切り開き、宿泊所を建設し、明治4年（1871年）には開拓使から湯守りを命じられました。この温泉開発に尽力をした開祖の名に因み定山溪温泉と命名されました。その定山和尚が、明治9年（1876年）に小樽との直通道路を開こうとしましたが、工事費が莫大になるということで断念したことが伝えられています。

本格的に道路が建設されるのはこの後のこととなります。大正の頃には定山溪温泉には2軒の温泉宿しかありませんでしたが、当時の小樽は北海道経済の中心であり、朝里川温泉が開発される前でもあったため、地元小樽の人ばかりでなく、商用等で来樽した本州の人もたくさん定山溪温泉を利用していました。その頃は小樽からは札幌市中心部を経由しなければ定山溪に行くことが出来なかったため、昭和5年（1930年）に小樽の実業家が「小樽定山溪自動車道路株式会社」を設立し、朝里峠経由の専用自動車道路の開削にとりかかりました。



小樽定山溪線 改良工事 計画平面図

工事は難航しましたが、昭和8年(1933年)に完成し、9月から3台のバスによる往復運行を開始しました。同時に有料道路として一般の車両も通行させていたようです。この道路の開通により、小樽と定山溪間は従来の半分以下の時間で結ばれ、途上の景色の良いことも評判となったと言います。しかし、冬期間は通行が不可能であり、また戦時下の乗客減などにより、昭和17年(1932年)に路線は閉鎖、会社も解散となりました。

第二次大戦中に軍部はこの道路が重要であるとして、公道とするように小樽市と豊平町(当時)に指示し、この道路を買い取らせました。戦後は道路としての利用が出来ないほど傷んでいましたが、昭和28年(1953年)から改良工事に着手し、その後道道に昇格して、昭和29年10月に再び開通しました。

その後、数々の本格的な改良、舗装工事が施され、現在に至っています。

●沿線の見所

札幌側の沿線には、定山溪温泉はもとより小樽内川を定山溪ダムで堰き止めたさっぽろ湖(平成2年完成)や札幌国際スキー場があります。また、小樽側には朝里川を朝里ダムで堰き止めたオタルナイ湖(平成4年完成)や朝里川温泉、スキー場があり、良く似た双子のような地域を結ぶ道路といえるでしょう。また、朝里ダムの建設により水没する区間の付替道路として完成した朝里大橋は、道内初のループ橋で、橋からの眺めは大変すばらしく、特に紅葉の時期には多くの人を訪れます。



朝里峠トンネル



栈道橋上面



▲ 栈道橋を側面から望む ▶



●整備にあたって

この路線の整備にあたっては、自然保護の観点から環境に優しいルートや工法を選定し、特に線形の厳しい朝里峠からの延長3,276m(北海道2,414m、札幌市862m)の工事区間には、トンネル、栈道橋、橋梁(3橋)、スノーシェルター、スノーシェッド(2箇所)を計画しました。平成元年から工事に着手し、総事業費118億円を投入して、平成12年度中の完成を目指し、整備を進めています。

残る事業としては、1号スノーシェッド上部工266m・下部工70m、2号スノーシェッド上部工164m、スノーシェルター上部工110m、起点(小樽)側摺付200m、トンネル・スノーシェッドの防災設備・照明設備・電源設備、路盤工、舗装などがあります。また、改良工区外の区間にも防雪工事で、朝里大橋に650m、第1ヘアピン区間に640mのロードヒーティングを実施し、併せて交通安全施設の整備も行っています。なお、札幌市側でもスノーシェッド(2箇所)の工事を実施するなど、通年開通に向けて急ピッチで工事が進められています。

●整備効果

札幌市と小樽市は道内の2大観光地ですが、小樽定山溪線の通年開通が図られますと、両市の連携による「夏」「冬」のイベントや、「温泉とダム湖、スキー場」を活用した今までにない観光スポットの開発など、新しい交流ルートの構築が期待されるそうです。さらに、朝里から国道393号に入って赤井川村のキロロリゾートに遊ぶも良し、また国道5号小樽、余市を経由して国道229号の積丹半島一周に足を伸ばすのも良し。道道小樽定山溪線は、道南方面から小樽方面への広域交通ネットワークを形成するうえで欠かすことのできない路線となります。